

2023
8月号

福岡地区労連

発行：福岡地区労働組合総連合
〒812-0016
福岡市博多区博多駅南1-9-8
ケイ・アイビル2F
TEL 092-433-3338
FAX 092-433-3535
Mail : fukuciku@gmail.com



(HPはこちら)

〈原水爆禁止世界大会広島〉

「核抑止論」は断固として退けなければ！



グリーンアリーナで開催されたヒロシマデー集会



国際会議でロシアの代表オレグ・ポドロフ氏(左写真)へ質問をする恵藤副議長(右写真)

地区労連から参加された恵藤副議長からロシアのオレグ代表に「ロシアから徴兵を逃れて100万人近くの若い市民が国を出て行っていることとロシア国民の日常の暮らしについて」質問しました。オレグ氏は「100万人近くの若い世代が国を出てしまっているのは将来的に大きな影響が出る。残っているロシア国民は毎日プロパガンダが流されているテレ

ビで、現実を知らされない。経済的にも政治的にも環境問題もあり良い状況ではない」と答えられました。第3セッション「核兵器のない平和で公正な世界―市民社会と連帯の行動」では、フィンランドから参加されたウーラ・クロツァーさんは自らが所属する平和を求める会が「フ

参加者から出された日本国内の労働組合の平和への取り組みの質問について、全労連の布施国際部長は、当時の戦争に動員する役割を果たしていた痛苦の反省に立ち、日本の労働組合は平和運動にコミットしているとし、「二度と教え子を戦場に送らない」「赤紙を配らない」などのスローガンや、戦争加担に直面している港湾、公共交通、医療の職場などでは、全国の職場地域で戦争に関わらない宣言や声を上げていることを紹介しました。

(編集委員 恵藤)

集会冒頭、野口主催者代表から、被爆者健康手帳を有する被爆者の平均年齢が85・01歳と初めて85歳を超えたこと、初めて12万人を切ったことで被爆の語り部の育成が課題となっていることが報告

されました。第1セッション「テーマ：被爆者の声を世界に」は、冒頭児玉三智子さんと横山照子さん2名の被爆者は、お二人とも80歳という高齢を押して参加され悲惨な被爆体験を語られました。

質疑応答でアメリカの参加者から「肉体的な苦痛をもって発するから貴重なのだ。この人たちが日本被団協を作った人たちだ」と、被爆者が自らの体験を勇気をもって話される姿に感動されていました。

第2セッション「核兵器禁止、核兵器のない世界の実現」では、アメリカ、フランス、ロシア、韓国の代表と日本原水協の安井事務局長が発言されました。ロシアの代表のオレグ・ポドロフ氏は、原発が大量破壊兵器になっている危険性と、100万人近くの若いロシア市民が徴兵を恐れて国を出て行ったことや、ロシア国民が真実を知らされない状況に置かれているロシア国内の状況を報告されました。

平和運動にコミットしている日本の労働組合

務次長は「被爆の実相を広げるために広島市立基町高校美術部の原爆パネル展をふくくプラザで開催した。九州産業大学でも被爆体験を聞いて絵をかくてもらうなど、若い世代に原爆の悲惨さが広がりつつある。」と発言しました。

世界・地域から43人、23団体が参加
福岡地区労連から3人参加

100万人の若い市民が国を出たロシア

インランドでは無法者をみなされている「実情と、結成した「No NATOの会」が今では世界40カ国に広がっている」と報告されました。またウーラさんは会場からの質問に「誇りをもっていた女性の首相はNATOに入ると言い出し、友人だった外務大臣も変わってしまった。事実を報道しなくなった」と困惑された回答でした。

〈異常気象〉 福岡各地の線状降水帯の傷跡

土砂崩れ災害 冠水おさまらず

自交総連福岡地連執行委員長 中村 朗



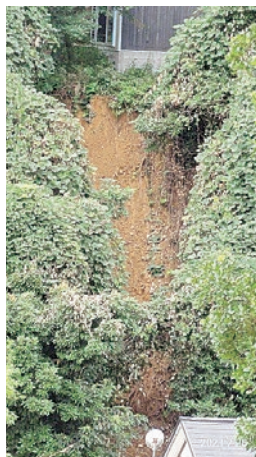
田主丸竹野地区で土砂崩れにより倒壊した建物

福岡県筑後朝倉地区では、7月10日の明け方以降に線状降水帯が発生し記録的な豪雨となり、自交総連・甘木観光労組では、二人の組合員が被災しました。被害は、床下浸水（一部床上）・断水・車両浸水などで、自宅近くでは土砂崩れも起こっており、人的被害も出ています。自交総連は、災害2日後に被災組合員に支援物資を届けました。現地では通行止めや立入禁止の規制場所があり、あちらこちらで交通が難航していました。被害がひどかった地区では、2日後に入って川でも無いところから水があらふれ出て、道路が川のような状態になっており、完全な復旧には時間がかかる見通しです。

福岡市内で崖崩れ

ひとごとではありません！

福岡・住環境を守る会共同代表 石井 吉弘



福岡市西区愛宕での崖崩れ

7月10日、愛宕3丁目で崖が崩れました。愛宕山周辺は、土砂災害警戒区域に囲まれ、どこで崖崩れが起きて

県・市・区は何度も被災者宅を訪問し、その後の対策を相談しています。現場にブルーシートを張ったのは被害25日後でした。

福建労大牟田支部の仲間も被災

福建労大牟田支部書記長 中嶋 了



広川で亡くなった仲間の車

福建労の北筑後支部、中筑後支部、京築支部を中心に家屋や倉庫、車、仕事道具など多くの被害がでています。（7月24日時点で

全壊3件、床上13件、床下15件、倉庫等17件の報告）
人的被害では、北筑後支部から重傷者も。同じく北筑後支部の家族、福建労大牟田支部では南関町の仲間が、広川町の現場から移動中に軽トラックごと増水した水路に流され亡くなっています。

〈福岡地区労連評議会〉

労働条件の引き上げ急務

夏季闘争方針は全会一致で採択

7月30日に第33回評議会を開催し、経過報告と次期大会までの



夏季闘争方針を確立しました。

評議会では、コロナは終息せず、ウクライナ侵攻も収まらないことから、異常な物価の高騰が生活に大きな打撃を与え、先の見通しが立たない情勢であることが強調され、エッセンシャルワーカーの労働条件の引き上げ

〈佐賀空港オスプレイ配備問題〉 新駐屯地建設中止を 求めて訴訟

求めて訴訟



会場でオスプレイ配備反対を掲げる

佐賀空港へのオスプレイの配備は、オスプレイ反対住民の会で地権者の古賀初次さんがずっと反対を訴えていました。しかし、九州

法廷で争うことを決めました。
オスプレイ配備計画は、現地の漁業者や地権者だけの問題ではなく、佐賀市民をはじめ

防衛局は、古賀さんたちが土地を売ることとに合意していないにもかかわらず、強引に建設工事を進めています。古賀さんたちは、佐賀空港への新駐屯地建設中止を求めて国と

（編集委員 松尾）



動画はこちらから

今後のスケジュール

●第34回福岡県労連定期大会

8月27日（日）
受付9：45
開会10：30～17：00
第3博多階成ビル
オンライン

●街角トークライブ

9月2日（土）14：00～15：30
警固公園

が急務であることから、ストライキを背景にした闘いが今後も重要であるとなりました。
夏季闘争方針では、平和や最低賃金などの闘いが中心に提案され、緊急提案ではオスプレイ配備反対集会に参加し、「オスプレイ裁判支援市民の会」に参加して活動する提案がされました。すべての議案が全会一致で採択されました。
（編集委員 内田）